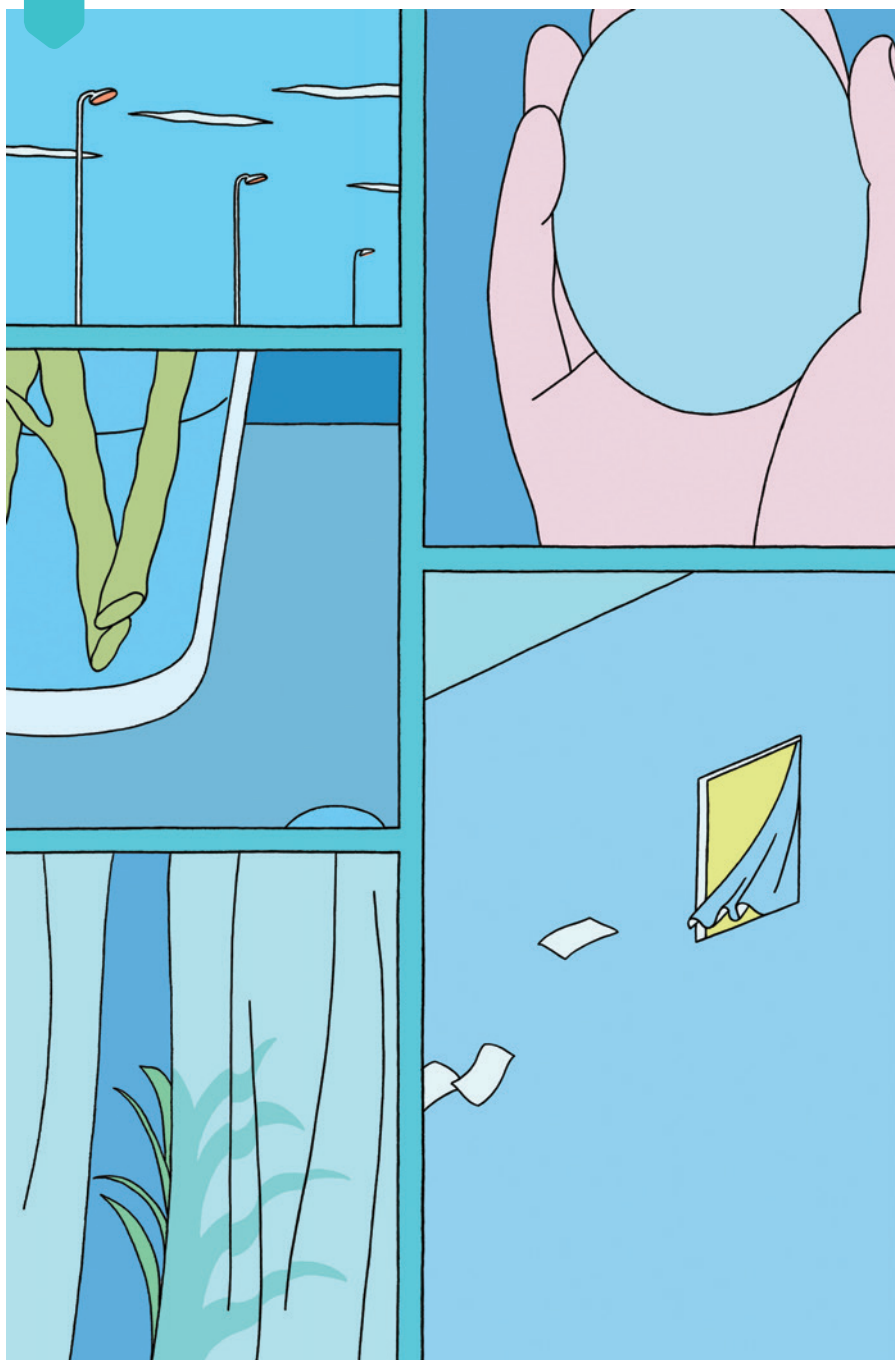


国語教育相談室

94

中学校



特集

ICTを活用する

【鼎談】石戸奈々子／苫野一徳／渡邊光輝

■国語道場

ICTを味方に！

■書写

二次元コードを活用しよう！

■巻頭エッセイ

絵画を言葉にする^{たの}しみ
布施英利



「マジ」の謎？

早稲田大学教授
森山卓郎 もりやまたくろう

「マジ」にはちょっとした謎がある。まず、品詞の謎。「マジ」の元の言葉(?)は、「真剣な顔つき、本気、誠実」などの意味の「真面目」である。これは形容動詞。「マジ」の場合も、「あれはマジだ」のように終止形が「だ」、連体形が「マジな話」「マジなやつ」など「な」になる。その点で形容動詞(語幹)である。

ただ、ふつうの形容動詞ではない。新情報に対する応答として、「雨、降っているよ。」↓「マジ!」などの使い方もあるのだ。これは、元々は「マジでそうか」などという一種のチェック表現だったのかもしれないが、もはや応答の感動詞になっている。

ちなみに、「母校のチームが勝った」という知らせに対しての応答で、その応答から察する「予想度」を調べたことがある。その結果、「マジ!」の方が「マジで!」より予想度が高かった(五段階で2.4と1.9)。「マジで!」の方が意外ということになる。言い換え

れば「マジ!」は真剣に疑うのではなく、新情報を受け入れる応答としての用法もあると言える。ちなみに「マジかよ!」の予測度は1.77で、かなり意外だったという判定だ。

さらに、マジは副詞にもなっている。「マジやばい!」などと言う場合、「マジ」は「やばい」を修飾しているからだ。「マジ」はそれだけ多様な用法で使

いたくなる語ということだろうか。さて、漱石『虞美人草』には「マジ」に通じる「真面目」がある。宗近が小野に藤尾との関係について意見する場面だ。

君もこの際一度真面目になれ。(略)——どうだね、小野さん、僕の云う事は分らないかね」「いえ、分ったです」「真面目だよ」「真面目に分ったです」「そんなら好い」

この「真面目に分ったです」は、「マジ、わかった」に相当するような用法だ。しかし、ここにも謎がある。「真面目に」だと「マジにわかった」とな

るはずだ。「真面目でわかった」とは言わない。ところが、ネットで検索すると「マジに」よりも「マジで」の方が圧倒的に多い。なぜだ?

よくわからないが、「マジ」が「本気」に相当する語と認識されているのかもしれない。「本気」と書いてマジと読ませる漫画もはやったようだ。「本気」なら「本気に」ではなく「本気で」という言い方だ。が、よくわからない。

——マジ、お前は本気か?

「マジ」も、いろんな情報が飛び交う現代社会を象徴する言葉の一つなのかもしれない。わざわざ「マジ」と言うということは、「マジでない状況」も多いということかもしれないからだ。マジか?と言いたくなるようなニュースも飛び込んでくる。

いろんな「マジ」を駆使しつつ、「マジ」になったりならなかったりして、大切なことはそれなりに真面目に、なんとかやっていきましょう!

探検! 言葉の森 43

「マジ」の謎? ● 森山卓郎

02

● 巻頭エッセイ 言葉と向き合う

絵画を言葉にする愉しみ ● 布施英利

04

特集

ICTを活用する

【鼎談】国語科の授業×ICTで生まれるもの ● 石戸奈々子／苫野一徳／渡邊光輝

【ICT実践アイデア】

ルーブリックを踏まえたICTの活用で

自己調整への意欲が高まる ● 岩船尚貴

可視化・共有ツールの活用で

説明的な文章の読みが深まる ● 岩船尚貴

録画機能の活用で

「話すこと・聞くこと」の指導と評価がさらに充実 ● 久保田聡子

ロイロノートのシンキングツールの活用で

読みのポイントを「見える化」 ● 村上薫子

14

● リエコの国語道場 2

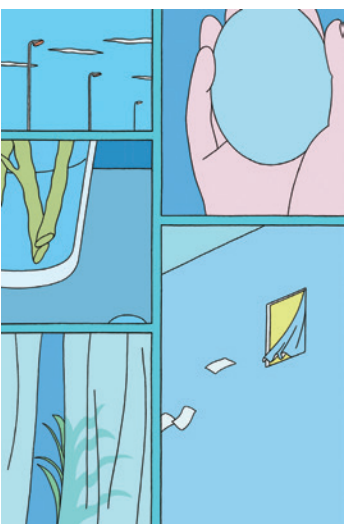
ICTを味方に! ● 作・画／あべかよこ 監修／甲斐利恵子

18

● 全力! コーギーのなるほど書写授業 2

二次元コードを活用しよう! ● 作／藤井浩治 画／ホリグチイツ

CONTENTS



表紙イラスト 大津萌乃

絵画を 言葉にする たの 愉しみ

美術批評家

布施英利

美術批評、ということに取り組んで三十五年ほどになる。

最初の著書『脳の中の美術館』という本を出したのが一九八八年、二十八歳の時だった。その頃も、そしてそれ以後も、世界の美術館に出かけたたくさん絵を見てきた。フランスの洞窟に残された二万年も昔の壁画に心を震わせたこともあった。そういう美術体験を言葉にして、何冊もの本を書いた。

絵画というのは、言葉にできないものを絵にするもので、絵画と向き合った時、人は言葉のない世界と向き合うことになる。だから美術批評のような

絵画を言葉にするのは「どんなものなのか？」と思われる人もいるかもしれない。絵画は、言葉ではない。言葉にならない、と。

しかし、そもそも言葉というのは、言葉にならないものをも言葉にする、ヒトが生み出した一つの能力、媒体だ。絵画や芸術に限らない。人は言葉によって、社会や自然や心を言葉にしてきた。言葉を生んだのは、サルから進化した脳の働きによるが、その「脳の働き」の重要なところは、別の二つのものを「交換」する働きである。それは、何かを結びつける、何かを「同じ」ものとして扱う、ということでもある。例えば、目で見たもの（「光」と、耳で聞いたもの（「音」）を結びつけて、一つの世界を把握することなど。ヒトの場合、さらに耳で聞いた声（話し言葉）を、目で見る文字（書き言葉）に変換できる。いや、そもそも声と文字が同じであると認識することが、言語というものである。ともかく、言葉というのは、別の二つの世界を結びつける。ここで話そうとしているのは「絵画を言葉にする」ということだが、そ

う考えると、美術批評という「絵画を言葉にする」行為は、もつともヒト的な行いと考えることもできる。

画家のセザンヌは、テーブルの上のリンゴを見て、リンゴの絵を描いた。そこでは、リンゴと「リンゴの絵」が等価に交換できるものとなる。美術批評というのは、セザンヌがリンゴを見て絵を描いたように、例えば「セザンヌの絵」を見て、それを批評という文章にする作業だ。セザンヌがリンゴを描いたように、批評家は言葉で絵（セザンヌの絵）を描く。

そんな理屈を捏ねてばかりでもない。なので、では具体的に、美術批評という行為は、どんなふうに絵を言葉にするのだろうか。例えばセザンヌのリンゴの絵をみて、美味しそうにリンゴだとか、形や色が美しいとか、あるいはそういう静物が置かれているセザンヌのアトリエの部屋について言葉にするやり方もある。もちろん、そんなふうにして絵画を語ってもいいが、それはリンゴやアトリエについて語っているだけで「絵画」について語っていると

評への取り組みによって行ってきたのは、あるいは「絵画を言葉にする」愉しみというのは、そういうことではない。セザンヌの絵画を見て、その絵画そのものが持っている構造・存在感、そういったことを美術批評として「創造」してきた。

例がセザンヌの絵画のことになったので、もう少し、自分のセザンヌ体験あるいは美術館でのセザンヌ批評の具体的なことについて語ってみたい。例えば、シカゴの美術館でセザンヌを見たときのこと。自分はその美術館に行く前に、アメリカ五大湖の湖畔に建つシカゴの水族館に行った。そこでいろんな海洋生物を見て、自然が作り出した生き物の形や色彩に魅了された。「美しい」ということでは、美術なんかよりも自然の方が、もっと多彩で驚きに満ちているのではないか、と思った。それから美術館に行つて、セザンヌの絵を見た。そこには、水族館で見たような自然が生み出した「美しさ」とは別のものがあつた。そのとき、自分が考えていたことを言葉にすれば、セザンヌが描いたのは、画家が見たり

リンゴの形や色や食感や味覚ではなく、そのリンゴを見ている画家の眼差しそのものである、ということを実感したのだ。セザンヌは、まずリンゴを見る。そこからさらに一段階上がつて、そのリンゴを見ている自分の眼差しを、さらに遠くから見る。それを絵画にする、セザンヌの絵が生まれる。絵画とは、画家の目の中、脳の中の世界を描くものだ。それは絵画を描くという行為によって以外に、この世界に存在させることのできない「絵画」という存在に他ならない。自分は、美術館でセザンヌの絵を見ながら、そんなことを考えた（感じた）。そして後日、そんなセザンヌ論を、美術批評の文章として発表した。

自分は、なぜ美術館に行くのか。それは美術が好きで、美術作品を鑑賞する時間に浸りたいからだ。と同時に、自分は美術批評ということも好きで、何か美術批評を書くために美術館に出かけて行って、話のネタを探してくるということもある。美術批評の楽しみは、そこにある。つまり、一つは美術を鑑賞する愉しみ。そしてもう一つは、

美術批評を書く（「絵画を言葉にする」）愉しみだ。美術館に一回行って、二つの愉しみが得られる。

あなたにも、「美術批評（とまで言わなくてもエッセイやブログでもいい）を書く」という愉しみをぜひ、楽しんでいただきたい。

布施英利

美術批評家。1960年、群馬県生まれ。東京藝術大学大学院修了後、東京大学医学部助手などを経て、現在、東京藝術大学教授。主な著書に、『君はレオナルド・ダ・ヴィンチを知っているか』『君はピカソを知っているか』『京都美術鑑賞入門』（ちくまプリマー新書）、『絵筆のいない絵画教室』（紀伊国屋書店）、『「モナリザ」の微笑み』（PHP新書）など。光村図書中学校『国語』2年「君は『最後の晩餐』を知っているか」筆者。



ICTを 活用する

GIGAスクール構想で、端末や環境の整備が進み、教育現場でのICT活用が加速しています。今号の特集では、今、どのような教育観・方法論のアップデートが求められているかをひもときながら、授業におけるICT活用の目的と意義について、三人の先生方に鼎談の形で語っていただきました。

具体的な活用のアイデアもご紹介します。

鼎談

国語科の授業

ICTで 生まれるもの

思考が相互触発される

石戸 渡邊先生は今、授業の中でいろいろな、また、具体的にどんな場面でICTを使われていますか。

渡邊 使い始めたのは、五年ほど前からです。今は一日の授業のうち、半分ぐらいで使っているでしょうか。教師からの情報提供と、子どもたち自身による情報収集、考えの整理や表現、他の生徒と交流するためのツールとして活用しています。

例えば、「故郷」では、デジタル教科書を使い、人物相関図を作りました。本文の読解では、コメント機能を使って交流を行いました。（以下、詳細は6ページ参照）

「報道文を比較して読もう」では、新聞記事のデータベースを利用して関連する情報を収集し、時系列で書き込みました。

「夏草——『おくのほそ道』から」では、バーチャルツアーをやったんです。今年は修学旅行に行けなかったので、せめて、という思いもあって。一人一か所、芭蕉が訪れた場所を調べ、Googleマップ上に書き込んでいきます。例えば、「立石寺」を調べた生徒は、芭蕉はここで己を見つめていたのではないかと感じました。そして、芭蕉の俳句に込めて、七・七の句を作るんで

す。「閑かさや岩にしみ入る蟬の声 静寂の夏 今吾を見る」。ちよつと、かつこいいですよ。

苦野 いいな。私もやってみたい。

渡邊 芭蕉の句に乗っかって。調べ学習で終わらせないとかがミソですね。地図上でたどっていくと、本で読むのと違って、「芭蕉って、こんなに歩いたのか。」という驚きもあるんです。

石戸 「故郷」では、一人一人がしっかりと思考して意見を表明している。しかも、書き込むことで共有できるから、多様な価値観や視点を知ることができます。自分と他者の思考を比較・分析できる授業になっていますね。新聞記事の実践では、情報を収集し、整理・分析する際に、ICTを使うとまとめやすいことがよくわかります。「おくのほそ道」では、マップにすることで臨場感が増し、想像力が刺激されます。一人一か所書き込むことで一体感も生まれ、意欲を高めているなと思いました。苦野先生は、どのような感想を抱かれましたか。

苦野 授業におけるICT活用については、大きく二つの意義を感じました。一つは、情報収集や編集が協働しながらできることです。今までも調べ学習はありましたが、「知の共有」は、そんなに活発にでき

なかったと思います。もう一つは、交流・意見交換ができること。それによって思考が相互触発されていますね。あつちでこんな句を作ったら、負けてなるものか。こっちもいい句、作るぞ……と。相互触発がどんどんスピードアップする子もいれば、いろんな人のものを取り入れながら、自分のペースで相互触発を受ける子もいて、それがすごくおもしろいと思いました。

石戸 そうですね。渡邊先生のご実践のように、「ICTを活用することで、学びをどう変革できるか」が、いちばん大事なことだと思えます。苦野先生は以前から「学びの個別化、協働化、プロジェクト化の融合」という理論を主張されてきたが、私は、それを低コストで効率的に実現してくれる手段の一つがICTだと考えています。授業の中でICTを活用することの意味や意義について、教えていただけますか。

苦野 そうですね。最近よくICT懷疑論や不安論を聞くんです。ドリル的なものを一人で黙々とやるイメージで捉えられているのかもしれませんが、渡邊先生のご実践を見たら、全然そうじゃないことがわかりますよね。知の相互触発があつて、しかも、自分に合った学び方を見つけ出すことがで

進行

石戸奈々子

慶應義塾大学大学院
メディアデザイン研究科教授

東京都生まれ。NPO法人CANVAS、株式会社デジタルえほん、一般社団法人超教育協会等を設立、代表に就任。著書に『日本のオンライン教育最前線—アフターコロナの学びを考える』（明石書店）『賢い子はスマホで何をしているのか』（日本経済新聞出版）など。

渡邊光輝

お茶の水女子大学附属
中学校教諭

千葉県生まれ。千葉県の公立中学校教諭、千葉大学教育学部附属中学校教諭を経て、現職。共著書に『学びの質を高める！ICTで変える国語授業』（明治図書出版）など。

苦野一徳

熊本大学教育学部准教授

兵庫県生まれ。専門は哲学、教育学。著書に『教育の力』（講談社）『はじめての哲学的思考』（筑摩書房）『「学校」をつくり直す』（河出書房新社）など多数。

渡邊先生の授業（三年）

「故郷」

①人物相関図を作る

デジタル教科書を使って、自分が読み取ったことを基に人物相関図を作成する。

②ルントウの目線から「私」との再会シーンを捉える

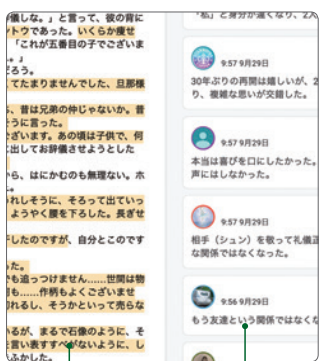
A・Bどちらかを選んで取り組む。

A ルントウ目線で、再会シーンを書き換えてみる。

B 「私」が感じた悲しむべき厚い壁とは何かについて論じる。

③後半部分を読んで交流する

ドキュメントに書き出した「故郷」の後半部分をクラス全体でデータ共有する。表現から読み取れること、感じたことをコメント機能を使って、各自が書き込んで交流する。（左図）



本文にマーカー

解釈の交流

「報道文を比較して読もう」

①新聞記事を読み、コメントを書き込む

*1 Google Jamboardの背景に紙面を貼り付け、付箋機能を使って意見を交流する。「事実」「意見」「印象」の三つの観点で意見を書き合う。

②関連する新聞記事をグループで調べる

新聞記事データベースを使い、グループごとに関連記事を集約する。教科書に掲載された記事は、二〇一八年のもので、その後の三年間で、東京五輪ボランティアの記事がどのように変化していったのか、時系列でPadletにまとめていく。（左図）



③論説記事を書く

*2 「五輪ボランティアの記事の変化から考える日本の社会」をテーマに論説記事を書く。

★ デジタルホワイトボードツール。
★ オンラインで使える掲示板。文字や写真、動画などを貼り付けることができる。

「夏草——『おくのほそ道』から」

①芭蕉が訪れた場所について調べる

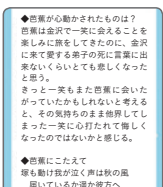
『おくのほそ道』全編（現代語訳付き）を読む。一人一か所分担し、芭蕉が訪れた場所について調べる。

②芭蕉が詠んだ俳句に添えて、七・七の句を作る

分担した場所について、「芭蕉が目にしたものの写真」「紀行文の概要」「芭蕉が心動かされたもの」「芭蕉にこたえて」の四つの視点でまとめる。「芭蕉にこたえて」では、芭蕉の句に七・七の下の句を付けた。例えば、金沢を選んだ生徒は、友人の一笑の死を知り詠まれた「塚も動け我が泣く声は秋の風」に続く形で、「届いているか 遥か彼方へ」という句を作成。芭蕉になりきっている姿が見られた。この記事をWORDのデジタルマップ上に貼り付けた。（左図）

③芭蕉の旅と現代の旅を比べ、語り合う

芭蕉の旅と、今の私たちの旅は何が違うかについて考え、語り合う。



授業の詳細は、YouTube 光村公式チャンネルで。

「個別最適化された学び」と「協働的な学び」の融合

きる。授業の中でICTを活用する意義は、そこにあると思うんです。

石戸 「個別最適化された学び」によって、一人一人が充実した学びを獲得し、その先に「協働的な学び」を置くことで、クラス全体の学びが深まり、レベルが上がっていく。授業においては、「個別最適化された学び」と「協働的な学び」の融合が大事ですね。渡邊先生、「個別最適化された学び」の面から、ICTを活用してよかったという事例があれば、教えてください。

渡邊 「個別最適化」かどうかはわからないですが、全員が授業に参加できるように、ということとを考えます。文章を書くときに、「あの子はどんなテーマだったから乗ってくるかな」とか、「書ける子のために、補助線フリーの選択も作っておきたい。」とか。とにかく全員を、授業の土俵に乗りたい。それに尽きます。一人一人に対して、どんなテーマで、どういうもっていき方で、どんな支援だったから乗ってくれるかを考えることが、「個別最適化」につながるのかもしれない。この点をICTにつなげて

考えると、支援がしやすいんです。例えば、資料を十枚も二十枚も配ると、うっとうしいですね。ICTには、そういう重さはない。届く子には届くし、そんなの吹っ飛ばして自分でやらせて、という子にも届く。そういうよさはあると思います。

苦野 「個別最適化」は、まだまだイメージが共有できていない、幅のある概念だと思うんです。アメリカのアルフィ・コーンは、「やる気を引き出す三つのC」として、「Contents（コンテンツ）」「Choice（チョイス）」「Collaboration（コラボレーション）」を提唱しました。「コンテンツ」は「内容」。それ自体がおもしろければ、やる気が出る。「チョイス」は「選択肢がある」。選択肢があると、やる気が出る。「コラボレーション」は、「協働できる」。困ったときには誰かの力を借りられるし、自分も誰かの役に立てる。人は「三つのC」がそろえば、やる気を出します。ICTは、まさに、この三つを整えるものだと思うんです。

渡邊 先生のご実践では、子どもたちが複数の「チョイス」をもっています。また、「おくのほそ道」に興味がない子でも、Google マップで可視化されると、自然とコンテンツ自体のおもしろさが見えてくる。このように、コンテンツのおもしろさ

学びのプロセスを共有する

渡邊 何がいちばん違うかというと、学習のプロセスが共有できるところです。例えば、完成した作文を読み合うことは紙でもやっていましたが、ICTだと、それが途中経過でできるんです。意見文で柱立てを考えると、段階でも、見合って共有しよ



鼎談の様子は、YouTube 光村公式チャンネルで。紙面の都合で、ご紹介できなかったお話もご覧いただけます。



●鼎談を終えての感想、全国の先生方に向けてのメッセージをお願いします。

これだけ変化の激しい時代に、今、求められていることは、「子どもたちの学び続ける力をどう育むか」ということだと思います。私たち自身も学び続けなければならぬのだと気づかされた鼎談でした。今日は、ありがとうございました。



自分を振り返ってみても、学問とか研究とか、親しんできた方法はなかなか変えられない。だけど試してみる、ちょっとやってみて失敗して、でも、こうしたらもっとうまくいかなと考えたほうが、人生おもしろそうだと思います。いきなり人生の話になりました(笑)。



まずはやってみて、失敗して、経験値を上げていくことしかないと思います。ICTを使って学ぶ子どもの姿から、教師が学んでいく。その循環で、きつとうまくなります。

られないのが問題なんです。自分がイメージしたとおりに子どもが動かずに、好き勝手にやられるのは、夜も眠れないほどの恐怖なんです。確立されたスタイルから、リスクを取って変えていくのは、とても勇気のいることです。そこを、ちょっとでも変えてみると楽しいかも、多少失敗してもいいやと進めていきたいのかなと思います。

石戸 こんな言い方は失礼ですが、渡邊先生も初めからできていたわけじゃないですよ。きつと、いろんな失敗があったんじゃないかと思いますが……。

渡邊 あります、あります。それはもう、毎日のように。いちばん多いのが、**ICT**がつかないなど機材のトラブル。新しいことをすると、必ずそういうことが起きるんです。だから、本来「十」やろうとした

うとか。完成したものにケチをつけられるのは屈辱的ですけど、書きかけの文章に「こうしたほうがいいよ。」とか、「これ、おもしろいね。」とか反応があると、むしろ、うれしいじゃないですか。そこからブラッシュアップできるから。すると、学びがどんどんオープンになってくる。学びのプロセスが、互いに溶け込み合います。君がこんなすごい文章を書くなら、僕も書いてやろうっていう、切磋琢磨も生まれます。

石戸 プロセスを共有できると、途中の段階で自分の考えを深めることに寄与しますね。もう一ついいなと思ったのは、プロセスを全て記録することで、学習履歴を自分で振り返ることができる点です。自分の軌跡を振り返り、自身の学びを見つめ直すという意味でも非常に有効だと思います。

苦野 プロセスを公開したくない、完璧に組み立ててから書きたいという即時フィードバックを求めている子も、経験を積む中で、途中でフィードバックをもらったほうがいいのかもと、気づくことがありますよね。いろんなやり方を試せることが、プロセスの共有のよさかなと思いました。

石戸 渡邊先生は、それぞれの生徒に対して、この子は今、フィードバックしてあげるといいなとか、共有してあげるといいな

自分の授業スタイルは なかなか変えられない

石戸 「ICTを使うと、学びはこんなになる」という視点で議論してきました

ことは、次は「三」ぐらいにしておこう、というように、微調整しながら進めています。

ICTを授業で活用する目的

苦野 熊本市では、導入にあたって、目的を共有したんです。ICTを使うことを自己目的化するのではなく、子どもが中心になる学び、探究的な学びのためのものであることを、教育センターが中心となつて、かなり意識的に浸透させました。目的が共有されて初めて、ICTはツールだということがわかり、では、どうやったら便利に使えるんだろうという発想が生まれます。

石戸 ICTはツールであり、手段にすぎない。大事なことは、それを使って、どういう学びを、どういう授業を作っていくか

が、いっぽうで全ての先生方がICTを活用されているわけではありませんよね。周りの先生方の利活用の状況はどうでしょうか。

渡邊 総合的な学習の時間や学校行事では使うけど、授業、特に国語科では使っていないという話をよく聞きます。

石戸 なかなか利活用が進まないことに関して、どのようにお考えですか。

渡邊 まず大前提として、先生方が単純に操作を覚えるのが大変で、使い方がわからないということがあります。ですが、もつと本質的な問題として、先生が説明し、質問して、黒板にまとめていくというこれまでの授業には、ICTは必要ないって思っちゃうんです。

石戸 なるほど。ICTの導入とは、これまでの学びをデジタル化することではなく、根本的に学びが変わることだと思います。我々が目ざすべきは、教育のDX。一方向に伝達する学びから、子どもたちが主体的に学んでいく学びへの変化のサポートをしてくれるのがICTだと考えますが、先生方は、どのようにお考えなんですか。

渡邊 子どもの学びを変える以前に、教師自身が自分の授業スタイルをなかなか変え

岩船先生
のアイデア ①

自己調整への意欲が高まる

「話の構成を工夫しよう 好きなことをスピーチで紹介する」(二年)

まず、ロイロノートのシンキングツールを活用して、話題を決め、材料を選んで整理し、話の構成を考えました(図1)。次に、評価の観点を書かれたループリックを示し(図2)、全体で目ざす姿を共有します。ルー

ブリックはA評価までしか示されていませんが、「S評価のスピーチとはどんな姿だろう?」と問いかけることで、生徒はA評価以上のスピーチの姿を考えて言語化し、より高い目標を設定することができます。

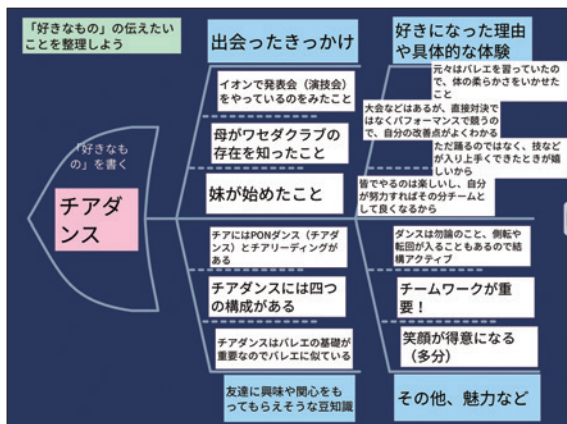


図1 フィッシュボーンでスピーチ内容の整理をする

評価規準	話し方	表情や態度	内容の説得力
S評価 (3点)	A評価の内容+αが見られた発表が「S評価」になります。どんな発表が「S評価」になるかを考えてみよう!		
A評価 (2点)	声の抑揚や話す速度などに工夫が見られ、言葉がはっきりとしていて聞き取りやすい話し方をしている。	聞き手に視線を向け、聞き手の反応を確かめながら、表情豊かに堂々とし、一瞬一瞬の文章構成が整理されている。	具体的なエピソードなどが盛り込まれており、「初め」から「中」まで「終わり」の文章構成が整理されている。

図2 ループリック

練習は、グループ内で発表者、聞き手、撮影係と役割分担をして行いました。こうすることで、発表者は聞き手の反応を確かめたり、動画で自分のスピーチを客観的に分析したりしながら練習することができ、さらに、ループリックで目ざす姿を仲間と共有し、互いに助言し合うことで、よりよいスピーチの姿を具体的にイメージし、それに向かって自己調整を

重ねていくことができました。

スピーチの会では、ループリックに沿って相互評価を行いました。教師は、Google Classroomを使って、あらかじめGoogleフォームで作成した評価フォームを配信します。ここでのポイントは、生徒が評価するフォームにループリック(図2)を挿入しておくことです。こうしておくことで、ループリックを基に仲間のスピーチを評価しながら、自然と自分が目ざすスピーチを意識するようになります。また、評価フォームに、「仲間への一言感想」や「よいと思ったことや、もっと知りたいと思ったこと」などの項目を設けることによって、発表者に対して即時的に評価や感想をフィードバックできるのもICTの強みといえるでしょう。

*1 オンライン学習システム。クラスの管理や課題の作成、共有などが可能。
*2 アンケートフォームなどを簡単に作成できる無料ツール。

岩船尚貴



上越教育大学附属中学校教諭

岩船先生
のアイデア ②

可視化・共有ツールの活用で

説明的な文章の読みが深まる

「モアイは語る——地球の未来」(二年)

導入では、Mentimeter^{*3}のワードクラウド機能を使います。モアイについて知っていることやイメージなどをタブレット端末に入力すると、自分の考えや、仲間の考えがリアルタイムでモニターに映し出されます(左写真)。導入で考えを可視化し、共有することで、動機づけが促され、主体的に文章を読むことにつながります。初

読の感想は、ロイロノートやGoogle Jamboardに書かせることによって、即時的に意見や疑問点などを共有することが可能になります。

次に、文章を要約することを目的として「作品^{*4}の内容を紹介する『Q&A集』

を作ろう」という課題に取り組みました。生徒は本文の内容を確かめながら、「なぜ」から始まる「Q(質問)」とそれに対する「A(答え)」をタブレット端末に打ち込んでいきます。仲間の「Q&A集」をグループで確認したり、互いに解き合ったりすることで、「構造と内容の把握」が促進されます。また、「筆者が最も伝えたい事柄について触れているQ&Aを発表しよう」という活動を位置づけることで、主張と例示の関係に気づくことができます。

文章をさらに読み深めるために、「筆者の主張を伝える工夫を考えよう」という課題に取り組みました。まず、プレゼンテーション作成アプリの共同編集機能を使い、グループの仲間と協働しながらスライドに「筆者の工夫」をまとめていきます(図3)。次に、それを基にプレゼンテーションを行いました。論理構造や表現など、さまざまな観点から見つけた「筆者の工夫」を教室

問いの順番がそのまま時の流れに。

	誰が	いつ	どうやって	なぜ	その後
答え	ポリネシア人	突然の製造開始	ヤシの木をころとして運搬	森の消滅	食料危機 ↓ 文明滅びる
時	5世紀頃	11世紀頃	8世紀頃からあった	7世紀から	17世紀後半から 18世紀前半

図3 生徒が制作したスライド

全体で共有することで、文章を多角的に「精査・解釈」することができました。

最後に、作ったスライドをクラウドに保存することで、仲間の成果物が共有され、デジタルポートフォリオとして蓄積されます。「読むこと」での学びを、意見文などの「書くこと」の学習に生かしていくことが可能となるのです。

*3 リアルタイムで投票やアンケートの結果を可視化できるウェブ上のサービス。
*4 「平成二十三年 全国学力・学習状況調査の問題を活用した授業アイデア例」(国立教育政策研究所)を参考にして実践した。



図3

図2

図1

①「シンシュン」(二年)

ベン図を用いて「発端」「山場」「結末」それぞれの場面における人物の心情を整理します。ベン図の中心部(円の重なる部分)はシンタとシュンタの「そっくり(共通)」な部分です。中心部を追うことで、二人の「そっくり」の対象が「外見や好き嫌い(図1)」から「気まずさ(図2)」を経て「内面・心(図3)」に変わるなど、二人の心情(好意・葛藤)や成長・変化を可視化することができました。

②「ちょっと立ち止まって」(二年)

本論の三つの図を位置づけたベン図(図4)を配付し、中心部(共通部分)に当てはまる言葉を考えさせました。ベン図に段落番号



図4



図5



図6

村上先生
のアイデア

ロイロノートのシンキングツールの活用で 読みのポイントを 「見える化」

岐阜県各務原市立桜丘中学校教諭

村上薫子



を記入した生徒は、中心部に「⑩(結論)」と書き、この結論には三つの事例全てが必要であることを見いだしました。他にも、「ちょっと立ち止まって」、「新しい発見の驚きや喜び」(筆者の主張、「三つの具体例が図」(絵という共通の土台でわかりやすくする工夫)などの意見が挙がり、ベン図を基に交流することで、筆者の主張や論の構成、例示の工夫を実感できました。

③「蓬萊の玉の枝」『竹取物語』から(二年)

発展的な学習として、五人の貴公子について調べ、人物像の可視化を試みました。まず、縦軸を「宝入手の難易度」、横軸を「地位の高さ」とし(図5)、五人のカードを動かしながら、地位の高い人ほど宝入手困難な宝を命じられたことをつかませます。次に、縦軸を「誠実さ」、横軸を「地位と宝の入手難易度」とした座標軸(図6)から、地位が高いほど不誠実な対応によって失敗していることに気づかせます。

生徒たちは、可視化された情報から人物設定のおもしろさを見だし、構成(順番)の意図に着目する生徒も出てきました。「竹取物語」の魅力により迫ることができたと思います。

久保田先生
のアイデア

録画機能の活用で

「話すこと・聞くこと」の 指導と評価がさらに充実

神奈川県川崎市立川崎高等学校附属中学校総括教諭

久保田聡子



「話すこと・聞くこと」の一单元あたりの時間のスリム化を図りながら、生徒一人一人の学習活動を保障するために、グループ



プレゼンテーションでの活用

別の発表活動を一齐に行いました。その様子をタブレット端末で動画撮影し、指導と評価に生かしました。

撮影は生徒が行います。事前に撮影をする位置や映し方のポイントを指導しておきます。例えば、スピーチの場合、グループの中でペアになって、互いの様子を撮影し、撮影後にデータを指導者に提出します。

指導者は、提出された動画を使って視覚的に指導を行うことができます。生徒にとっては、メタ認知をしながら指導を受けることで、より改善を図りやすくなることで期待されます。

評価については、各グループを巡回しながら行いますが、提出された動画を視聴することで生徒の様子を再確認し、最終評価に生かすことができます。気になる部分については繰り返し視聴し、詳細に分析する

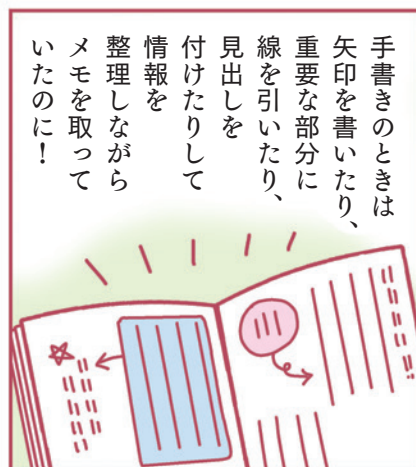
ことも可能です。

このように、撮影した動画は「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」を見取るうえでの客観的な評価材料として有効だと考えます。話し合いやインタビュウ等の学習でも同じように活用できます。

なお、動画は個人情報であるため、その取り扱いには注意が必要です。個人情報流出を防ぐためにも撮影は発表者本人のタブレット端末を使用することを原則とします。話し合い等、複数で行う活動場面の撮影については、代替機を使うのが望ましいですが、難しい場合は生徒の端末を使用します。その際、データを個人保管しないよう指導します。また、指導者に対しても使用したデータは、適切に処理することを徹底します(年度末に生徒にデータを返却、もしくは許可を得て削除するなど)。



インタビューでの活用
(二人が映るように端末を設置)





ICTには得意・不得意があります。得意なところは生かし、ICTでは捉えにくい子どもたちの姿は私たち教師が見取ることで、ICTを「心強い味方」にしていきましょう。見えないものも見えていこうとする姿勢を忘れないようにしたいですね!



全カ!のなるほど書字授業

Vol.2 二次元コードを活用しよう!

作/藤井浩治 画/ホリグチイツ



タブレットやスマートフォンで読み取ろう!

読み取ってみよう



教科書60・61ページ

二次元コードの活用術その1

動画資料を活用せよ

運筆動画

毛筆教材の筆使いを確認することができ、よりわかりやすく文字の書き方を学ぶことができます。



教科書61ページ対応資料 「大木」の筆使い



用具の準備・片付け

用具の準備や片付けの手順を身につければ、書く時間を確保することができます。

準備2分

片付け3分



教科書32ページ対応資料 用具の準備

「GIGAスクール構想」で導入された端末が使えるばい!



タブレットなら子どもたちがそれぞれ繰り返し確認できます





教科書表紙裏対応資料
硯ができるまで



教科書表紙裏対応資料
筆ができるまで

写真資料
学習に役立つさまざまな
写真資料を用意しています。

写真資料

二次元コードの
活用術その2

豊富な資料で学びを深めよ

おすすめ！全国文字マップ／



教科書92・94ページ対応資料 全国文字マップ



外部サイト

関連する外部サイトを整理して
います。書写の知識・理解が深ま
ります。



教科書48ページ対応資料 漢字のはじまり
(台東区立書道博物館)



【収録内容】

- 筆・和紙・硯・墨の作り方
- 書の歴史
- 「源氏物語」について
- UD 視点の書体
- 都道府県章・シンボルマーク
- 年賀状の歴史 など

私たちの街には
どげん「文字」が
あるっちゃろ



二次元コードの
活用術その3

家庭学習で活用せよ

自学自習が可能

コロナ対応のオンライン
授業や、書き初めの宿題で
も活用できます。



教科書148ページ対応資料 「不言実行(行書)」の筆使い



子どもたちを
「書写好き」に……
熱い思いで
コージーは
次の学校へ……



“学びをワクワクさせるのは デジタル教科書だ”



光村図書 デジタル教科書 & デジタル教材

商品
ライン
ナップ

◆ 令和 3 年度版中学校教科書準拠

— 指導者用デジタル教科書(教材) [学校フリーライセンス]

国語 1~3 年 各 79,200 円 / 26,400 円 (1 年間利用)

英語 1~3 年 各 82,500 円 / 27,500 円 (1 年間利用)

— 学習者用デジタル教科書 [ユーザーライセンス]

道徳 1~3 年 各 660 円

— 学習者用デジタル教科書+教材 [ユーザーライセンス]

国語 1~3 年 各 1,100 円 英語 1~3 年 各 990 円

好評
発売中

▼▼▼ 詳しい商品情報ははこちら ▼▼▼

光村図書 デジタル



中学校 国語教育相談室 94 号 2022 年 4 月 15 日発行

発行人 吉田直樹

発行所 光村図書出版株式会社

〒141-8675 東京都品川区上大崎 2-19-9

電話: 03-3493-2111

www.mitsumura-tosho.co.jp

E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp

印刷所 加藤文明社

デザイン mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」
にのっとり、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。広報誌の
配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。



光村図書